

# 会 議 録 要 旨

会議名		令和3年度 第4回藤沢市下水道運営審議会	
開催日時		2021年（令和3年）8月30日（月）午前9時30分～午前11時56分	
開催場所		本庁舎5-1, 5-2会議室	傍聴者数 0人
出席者	会長	杉渕 武	
	委員	井上 美鈴      大内 禎      齋藤 力良      野牧 喜久江 深澤 潤子      三輪 晋      矢出 乃大	
	事務局	鈴木下水道部長 [下水道総務課] 近藤参事・指旗主幹・濱野主幹・細谷主幹・小川補佐 利根補佐・外山専任補佐・矢口上級主査・三澤上級主査 吉原専任上級主査・松本主査・松田主任・田中担当・茂垣担当 [下水道管路課] 中村課長・藤原補佐 [下水道施設課] 真間参事・佐藤補佐	
議題及び公開・非公開の別	1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について 下水道ビジョン改定について 2 中期経営計画の策定について 3 評価委員会の設置について 4 有収水量等の見直しについて <div style="text-align: right;">（すべて公開）</div>		
非公開の理由			
審議等の概要	<p><b>《議題》</b></p> <p>1 今後の下水道事業における整備と運営のあり方について  <b>【下水道ビジョン改定について】</b> 資料1-1～5に基づき説明。</p> <p><b>《意見・質疑》</b></p> <p>(1) 資料1-5について、P14～各領域ごとの状況が分かり、今やらなければいけないことがよくわかる記述になっている。</p> <p>(2) 資料1-5、P33では、施策に対する事例があり、今度はその中から何を具体的に藤沢市でやっていくのかということを議論していくと思われそうですが、その方策の方針のようなものはある程度絞り込みをされているのでしょうか。  <b>《回答》</b>          市の持っている条件と世界の求めているニーズを勘案し、まず最初にやるべきこととしては大きな方向性・方針を考えたいうえで、より具体的な形に絞る、具体的な事業や取組を絞っていきたいと考えております。</p> <p>(3) 今後の10年の中で、短期・中期・長期で整備していくということによろしいか。  <b>《回答》</b>          おっしゃるとおりです。</p> <p>(4) 財政的な問題もあると思いますがじっくりと取り組んでいただきたい。</p> <p>(5) 資料1-5、P22領域9の市民理解の促進にあるマンホールカードは、小学生向けの啓蒙活動的にはすごくよいと思いますが、マンホールは自治体固有のマンホールのため、汎用品のマンホールのほうが安く調達しやすい点から考えると自治体固有でなく汎用品がよいと思います。そうすると、マンホールカードに代わる啓蒙活動として動画やユーチューブで補完してはどうか。          年に1回開催されている下水道展のPR活動も、下水道の啓蒙になると考えます。  <b>《回答》</b>          マンホール蓋は鋳鉄製で鋳型を作るため最初はイニシャルコストがかかりますが、1回作ってしまえばそれほど高価でないことから、今後も市の色を出していきたいと考えております。ただし、交通量の多い道路のマンホール蓋は、汎用性の高い模様がない蓋で、性能を重視した規格になっております。</p>		

<p>審議等の概要</p>	<p>PRにつきましては、さまざまな媒体を使い機会を捉えて行っていきたいと思います。</p> <p>(6) 資料のまとめ方について、P14～22は各領域についてまとめられておりそれぞれ課題として書いてあることが、P23の課題解決の方向性に集約されてくるかと思えます。それぞれの課題が課題解決の方向性につながるところが少し理解しにくい ため、各ページの課題の書き方を工夫したらどうか。 《回答》 見直ししたいと思います。</p> <p>(7) マンホール蓋の絵柄は、ふじキュンの絵などを使ったほうが小中学生が楽しめる と思えます。広報や湘南えるを使い下水の使い方の呼びかけがあり市民広報的によ かったと思えます。 《回答》 マンホールの絵柄は、江の島でオリンピックが開かれたため「ようこそ藤沢市へ」 など変わった絵柄を作りました。ご当地独自の絵柄も費用も含め検討していきま す。</p> <p>(8) 資料1-5、P15の課題の④浸水被害最小化のためのソフト対策は、具体的にどう いったイメージを考えているのか。⑤自助・共助の促進等による総合的な浸水対策 は大変重要ですが、自助・共助となると条例や要綱を新たに作ることを考えている のか。どういふことをイメージしているのか分かるようにしたほうがよい。 《回答》 ④ソフト対策の一例として、市ではふじさわ防災ナビを改定し内水ハザードマッ プを掲載しています。この中では対象降雨が1時間当たり153ミリという想定 し得る最大降雨で、ハード対策では賄いきれないところをお伝えしており、避難 の事前準備等に活用していただくようになっております。 資料1-4ピンク色の事業(例)の7. 雨水管理総合計画事業(ソフト)がござ います。これは浸水想定区域図の策定や止水板等の設置方針の策定が、自助・共 助に関連するところです。自助のために止水板を設置することに対し助成する制 度はありませんが、場合によっては規程を設ける等の検討をしております。 P15右下の雨水貯留施設(慶応義塾大学湘南藤沢キャンパス周辺地区)は、平成27 年度の下水道法改正を受け、民間が整備する貯留施設について民間事業者に対し 支援したもので、条例改正をした事例がございますので、条例改正が必要なもの も視野に入れて進めてまいります。イメージができるよう分かりやすくしたいと 思います。</p> <p>(9) 条例改正をしてやった事例は大変有意義なことなので、記載してわかるようにす ると市民や他都市に対しても紹介になると思えます。</p> <p><b>2 中期経営計画の策定について 資料2に基づき説明。</b></p> <p><b>【意見・質疑】</b></p> <p>(10) P6の3将来の備えとして建設改良積立金の創設の検討とあるが、原資は何を想定 されているのか。 起債残高がピーク時から比べるとかなり下がってきており良い結果だと思えますが、 どの自治体もこれから大規模改修の時期に来ており、これからの増え方はどうなっ ていくのか。 《回答》 建設改良積立金の原資は、資料P6①収益的支出で生じた利益分を議会の議決を経 て、建設改良積立に積み立てていきます。 借入金の見通しについては、今後、重点施策・予算の財政フレームを検討し、財 政シミュレーションを行う中で実際に借入額を決めていく予定です。上限額とい うより適正な額を検討してまいります。</p> <p>(11) 現状の純利益の金額と取り扱いはどのようになっているのか。 《回答》 純利益は昨年度3億円、令和2年度は約8億円生じており、議会の議決を経て減 債積立金として積み立て、資本的支出の企業債の償還元金に充当しています。</p> <p>(12) 企業債の償還に充てないで、積立金という基金にするとということか。 《回答》 今後長期の財政シミュレーションを行う中で、現在積み立てている減債積立金と 課題にある建設改良積立金を、将来に向けどのようにしていくか検討してまいり ます。</p>
---------------	--

審議等の概要

(13) P4優先順位の評価項目で、緊急度、重要度、費用とあり、費用のところは費用対効果とあるが評価方法はあるのか。また、効果は具体的に何を示しているのか。

《回答》

資料1-5、P36ビジョンの中で、コスト・事業効果・リスクのバランスを考慮した事業運営を行っていくという考え方があります。評価項目に費用（費用対効果）とございますが、例えばリスクを排除するためにバランスを取りながら、事業運営を行ううえで、今後予想される費用などが大きく関わってきます。お金や今後の影響を鑑みるなどの観点を持つため項目に入れています。

(14) 効果はどのように評価するのか、予防保全的に適正な時期に安い費用で施策が達成できることがひとつだと思う。また、経費だけでなく例えば施策10や11で収益が得られる可能性もあります。もう一つは、地球温暖化においては炭酸ガスの排出量も効果となります。効果は非常に広いが、ここでの費用対効果の効果は、対象とする施策の事業と、今考えている事業の費用差を効果とみていると思われまので、全体を考えると効果というのが抜け落ちていると思われま。

《回答》

評価項目の3項目は、緊急度、重要度、費用としており、ゼロリスクを図るとすると費用がかかるためバランスを勘案し項目としています。

(15) 効果指標は取り上げるのが難しいため、費用とその効果、バランスをどのように指標を取り上げていくか、よく検討をしないといけないと思います。ここでは定性的な文言となっているため、どういう点を重要度として見るのか補ったほうが分かりやすいため、よく検討をしてください。

(16) ここでは予算取りの費用対効果となっています。事業をした後の費用対効果は出しづらいものですが、これが本来の費用対効果と考えます。

(17) P9の国庫補助金対象事業の財源内訳の表（事業費、単独事業費、補助対象事業費）をわかりやすい表にしてください。

3 評価委員会の設置について 資料3に基づき説明。

【質疑】なし

4 有収水量等の見通しについて 資料4に基づき説明。

○前回審議会の質問について回答。

県内各市の下水道使用料比較について、参考資料に基づき説明。

排水の再利用を行っている事業者数（15社中2社）の回答。

【質疑】

(18) P17~18でケース別に差がでていますが、10年後、20年後に差が大きくなっているが、ケース3が他ほかに比べて非常に少なくなっている要因はなにか。

《回答》

ケース3は、一般汚水は件数増加に伴い引き続き増加していく考えですが、特定汚水（大口の事業者）は、近年の排出量が減少していることを踏まえ将来的にも減少し続ける想定をしています。特定汚水分の収入がだんだんと少なくなり、2042年度には全体で若干減少傾向となる予測です。

(19) 特定汚水の減少傾向は、20年間同じ傾向となる推計なのか。

《回答》

同じペースで減少する推計です。大口の事業者がどのように水を使っていくか予測は難しく、全体的な傾向から予測をしております。

(20) P9の1日1人当たりの利用水量が246リットルとあり、すごく多いと思います。がどのように算出しているのか。

《回答》

一般汚水（月当たり100立米以下）の利用者の平均値となります。1人世帯、複数人の世帯の方たちを含め平均値を出しています。

(21) P18の下水道使用料収入予測は、上水とリンクしていると思われまますが、上水の使用料と10年後、20年後の予測は合っているのか。

《回答》

上下水道は一括で料金をいただいておりますので、基本的には上水を使った分が下水道の水量になりますが、大きい事業者などでは、井戸水を使用し下水道に流す量が増えることがあります。また、作る製品に水を使用すると下水道に流す量が減ることもあり、一概に上水道の水量と完全に一致するものではありません。

	今までの実績などを踏まえ予測をしており、上水道の動向は捉えておりません。
その他	(1) 下水道フェアの中止の報告。 啓発事業として「広報ふじさわ」及びタウン誌「湘南える」への記事掲載について報告。